

「自然との関わりの中で
子どもたちの関心(学び)に気づき・
共感し・支えること」
～保育者の援助としての環境設定を
考える～

虫と子どもに関わり

御濠端幼稚園	大野瑠季	城山幼稚園	加藤里奈
こゆるぎ幼稚園	内田瑞希	宮上幼稚園	高橋由貴

年少～だんごむしと子どもたちの関わり～

<きっかけ>

- ・アサガオの水やりの中で植木鉢の下にダンゴ虫がいるのを発見する。
- ・園庭で遊んでいる時に落ち葉の下やプランターの下にいるのを発見する

<ダンゴ虫の飼育開始！>

○最初に見つけた二匹のダンゴ虫と新しく見つけた1匹のダンゴ虫



○おうちをバケツから虫かごに変える

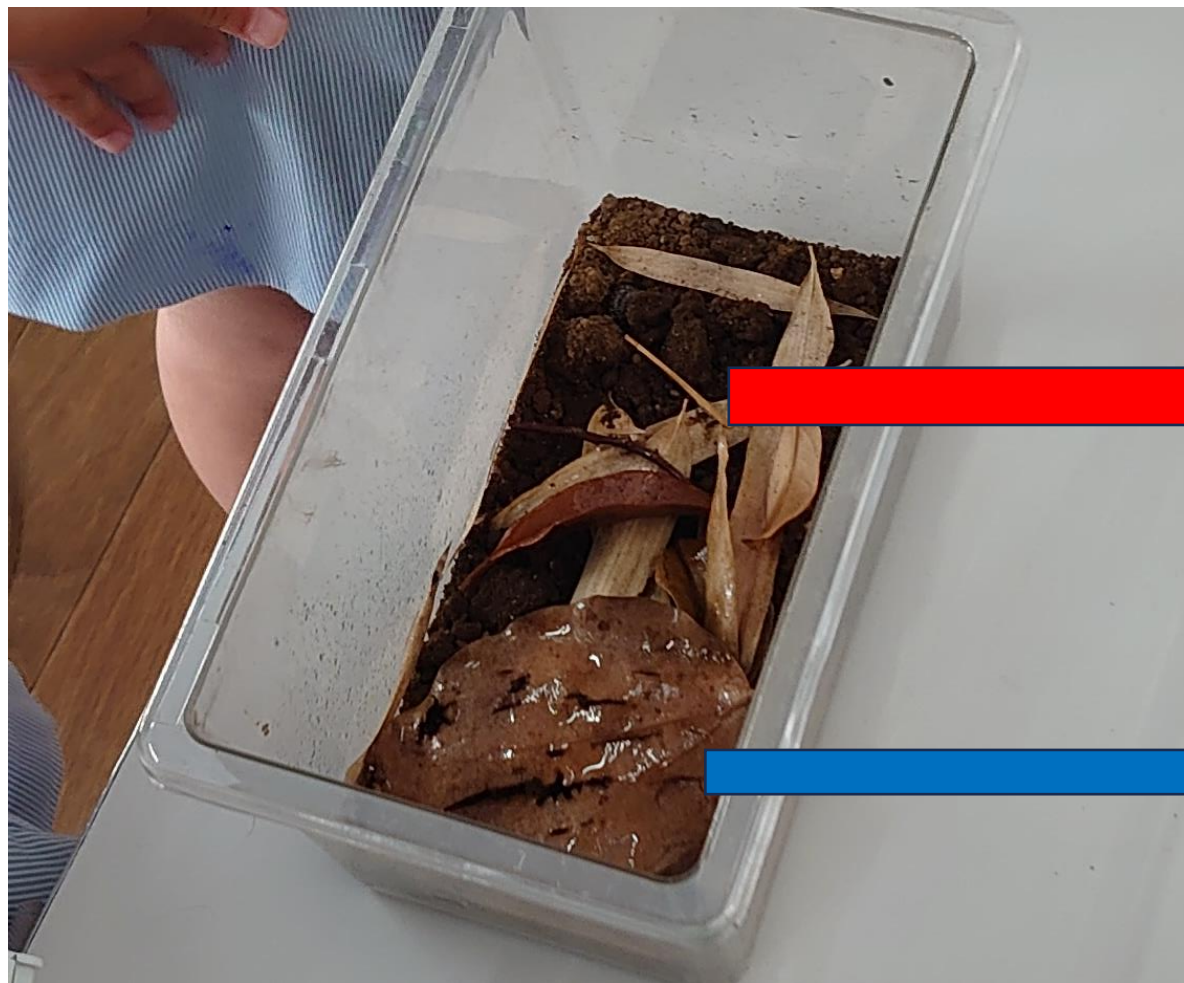


バケツのおうち



飼育ケースのおうち

○ダンゴ虫の食べ物



固い落ち葉は食べない
(笹の葉、金木犀、照葉樹)

柔らかい落ち葉は食べる
(桜のような落葉樹)

<事件1>

ダンゴ虫迷路をやりたいと話にきたため、子どもと教師で話しながら、ダンゴ虫迷路を作る。完成すると、ダンゴ虫を迷路の中に入れて、歩かせたり、箱を傾けて転がしたりして、遊ぶようになる。毎日ダンゴ虫迷路で遊んでいたが、ダンゴ虫の出し入れを繰り返しているうちに、ダンゴ虫が弱り、死んでしまった。



<事件2>

虫嫌いな子が自分から「ダンゴ虫出していい？」と聞いてくる。飼育ケースから空箱に出してつまんだり、つついたりしているが、力が強くなってしまう、つぶしてしまう。本人から「先生、つぶれちゃった」と言いに来る「もう少し優しくつまもうね、ダンゴ虫にごめんねって言おう」と伝え、外に置く。(本人は直にごみ箱に入れようとするので止めた。他児は気づいていない) それ以降「優しく触るんだよね」と言いながら触って遊んでいる。

<成長と学び>

- ・最初は「死」というものを理解していない子どもが多く、「動いてないから先生が動かして」という子どもがいた
- ・ダンゴ虫が死んでしまったら「新しいだんご虫を探せばいい」という子どもが多くいた
- ・死んでしまったダンゴ虫には、興味をなくしてしまっていた。

そこから、

- ・死について少しずつ理解し始める
- ・大切に育てようという気持ちが芽生える
- ・教師の提案に対し、真剣に考える様子がある

年中～虫と子どものかかわり～

<きっかけ>

テントウムシ探しを始め、図鑑で調べて、集まりの時間に“虫紹介”と題して虫をみんなに紹介して興味を示すようになる



<飼育を開始>

- ・テントウムシ、バッタ、カミキリムシ、アリ、カマキリ
- ・図鑑でご飯などを知って、一人一つ虫ケースを使って家づくりをする
- ・テントウムシのエサを探す
→アブラムシ探し



<発展>

- ・運動会で「虫を作ってそれを捕まえに行くリレーをしたい」という声上がる
 - それぞれが図鑑を活用して、虫を製作する
 - 大きな木や花畑を製作し、虫にマジックテープを取り付け、取り外しができるようにした。
- ひとり一つ虫を取って帰ってくるゲームに発展している



<練習の様子>



↑ 虫の場所を考え貼り付けているところ



<運動会当日の様子>



↑ 自分の捕まえたい虫を選んでとっている様子



↑ みんなが作った虫の森の様子

<成長と学び>

- ・死なせてしまった時に何がいけなかったのか、どうすればよかったのかを振り返って考え、工夫すること(問題発見や問題解決能力)
- ・他児と話をして理解をお互いに深め、協力する力(社会性)
- ・虫の気持ちになって“かわいそう”と感ずることなどの人間性(豊かな人間性)
- ・責任をもって育てるという自立心
- ・図鑑で調べることによって文字にも触れる。様々な種類があることを知る
- ・幼虫から成虫になったことなどの喜び、達成感
- ・年少児に比べ自分たちで話をして工夫しあっている

年長～子どもと虫のかかわりについて～

<きっかけ>

★一人一冊のポケット図鑑



園庭の虫や花を見つけて自ら調べて友だちと情報の共有をしたり、一緒に調べて楽しんだりする姿が見られた



他学年児との関わりにも発展



ポケット図鑑を
持ってお散歩 ♪



これは「〇〇と
いう虫だよ！」

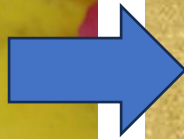
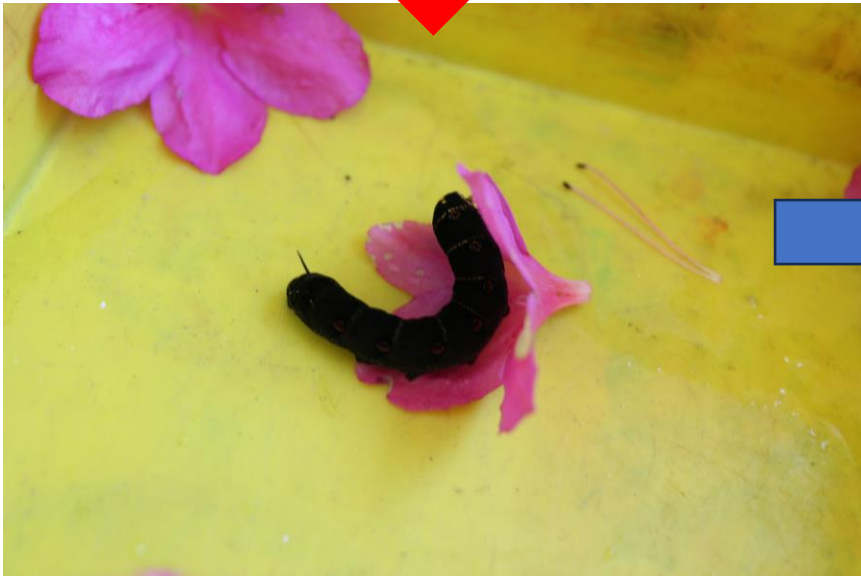


他学年との交流の様子

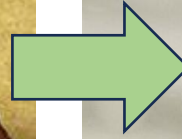
<飼育>

○セスジスズメの幼虫を育てたい！

お花の蜜と葉っぱがあるからこれを食べるのかも！と調べ、
園庭にあるツツジの花と葉っぱを入れてみた



さなぎ



羽化したセスジスズメ





見てみて！
羽化した
よ！！

セスジスズメとさよならしました！

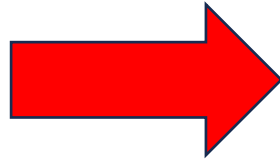


また遊びに
来てね！！



<発展>

虫探しを楽しむ子が活動の中で、アトリエ(紙コップやストローなどの素材)を使って好きな虫を作る姿もあり、虫探しゲームに発展している。



クモはどのように作ろうか？

みんなで作った
もので遊ぼう！



虫のせかいに発展！



店員が虫を隠します！



↑ 作品の展示
こだわったポイントも書いてあります



お客さんは虫メガネを使って探します！

<成長と学び>

1学期は『生き物の大切さや命の尊さを身近に感じ、この経験を通して情緒の面を育む(友だちに優しくし、大切に思うこと)きっかけにしていきたい。』という教師のねらいを持って虫とのかかわりを大切に過ごした。



2学期になり、子どもたちは相手の(友だち・虫なども含め)気持ちを尊重するような姿や、友だちの気持ちに気づき、相手を認めることができるようになってきている。

この半年で虫や自然との関わりも増え、いろいろなことに興味関心を持ち、子どもたち同士の対話が増えていった。

より詳しく調べるために絵本・図鑑・iPadなど様々なものを活用して、知識を得ることができている。